

## 第2回刃物検定 はもけん 解答&解説文

### 【問題1 答え】 ④ 11月 8日

全国的に「ふいご祭り」が行われていることと「イハ」の語呂合わせがよいことから11月8日は「刃物の日」として、日本記念日協会に登録されており、全国800か所に設置された刃物回収ボックスに寄せられた刃物は、岐阜県関刃物産業連合会が、刃物供養祭において供養した後、大手鉄鋼メーカーのご協力により、新たな鋼材へとリサイクルされています。毎年、約35,000本の刃物が新しい刃物や金属製品に生まれ変わっています。

### 【問題2 答え】 ③ 孫六之碑

関鍛冶伝承館には、古くなり使えなくなった刃物を供養する「刃物塚」や、日本刀鍛錬塾の跡地ということで、日本刀鍛錬塾を開設し塾長を務めた渡辺兼永翁碑があります。また、関市は日本の人口重心地として知られ、日本の真ん中として関市の飛躍をシンボル化したモニュメント「W・Eセンターポール」が設置されています。

### 【問題3 答え】 ② 空ちゃん

関の刃物大使「空ちゃん」は、刃物の安全な使い方を積極的に啓発推進するとともに、関の刃物大使として関の誇る地域ブランドを刃物のまち関から全国に発信していくため、誕生しました。はもみんは、関市イメージキャラクター。うかるくんは、小瀬鶉飼をPRするキャラクター。ひろまるくんは、関市文化財保護センターのマスコットです。

### 【問題4 答え】 ② 之定(のさだ)

二代兼定は和泉守を名乗り、定の字をうかんむりの下に“之”と銘切りをしていたので、“之定”(のさだ)と呼ばれました。三代兼定が“足定”(ひきさだ)、二代兼元が“孫六”(まごろく)と呼ばれました。“虎徹”(こてつ)は、江戸時代の刀工です。

### 【問題5 答え】 ④ シェフィールド(イギリス)

シェフィールド(Sheffield)は、イギリスのイングランド中部の工業都市で、鉄鋼業で発展し、ナイフやフォークなどの刃物産地として知られています。サンドビケン(スウェーデン)は、鋼の産地です。

【問題6 答え】 ④ 100位ランク外

地域ブランド調査2014は、ブランド総合研究所が年1回調査を行っており、全国1,000市町村を調査対象に認知度や魅力度、情報接触度など74項目で実施されました。岐阜県内では、高山市63位、飛騨市71位、下呂市94位となっており、関市はランク外です。

【問題7 答え】 ② 約340億円

平成25年度の刃物の製造品出荷額は339億円。①は昭和40年度の刃物の製造品出荷額で97億円、③は昭和60年度の刃物の製造品出荷額で533億円、④は平成25年度の金属関係の製造品出荷額で1521億円です。

【問題8 答え】 ③ 約3分の1

「平成24年経済センサス-活動調査」によると、関市の全事業所数は1,327事業所で、刃物関係事業所数約400事業所は、関市内全事業所(製造業)の約3分の1を占めています。

【問題9 答え】 ③ ハサミ(理髪用を除く)

平成24年の工業統計調査結果によると、刃物製品出荷額の全国シェアは包丁56.0%、ナイフ類57.9%、ハサミ(理髪用を除く)28.9%、理髪用刃物(カミソリ、ハサミ等)69.6%です。

【問題10 答え】 ③ 付け焼刃

付け焼刃は、切れ味の悪い刀に、鋼の焼き刃だけをつけたものです。鋼を折り返し鍛えることで、よく切れ長持ちする刀が出来ます。しかし、鋼を足しただけの刀は、見た目だけで使い物になりません。その意味で、一時的にその場を間に合わせるために、にわかに習い覚えることは、すぐにぼろを出すという意味として使われています。

【問題11 答え】 ① 千手院派

関鍛冶七流とよばれたのは「善定(ぜんじょう)」「奈良(なら)」「三阿弥(さんあみ)」「徳永(とくえい)」「得印(とくいん)」「良賢(りょうけん)」「室屋(むろや)」の各流派。これらの流派は互いに技術を競いながらも、掟を定め、協力しながら刀造りに励みました。

【問題12 答え】 ③ 兼定

鍛冶座の運営は、関鍛冶七流の各派を代表する頭領で構成される合議制で統率され、“七頭制”と呼んでいます。七頭は、兼吉(善定)、兼常(奈良)、兼則(三阿弥)、兼弘(徳永)、兼安(得印)、兼宗(良賢)、兼在(室屋)で構成されており、この子孫が代々世襲により継いでいます。

【問題13 答え】 ② 明治9年

廃刀令により士族の帯刀が禁止され、刀剣の生産は衰退の一途をたどります。平和な世の中が続いた江戸時代に刀剣需要が落ち込み、小刀や剃刀などの家庭用刃物や鋤や鍬などの農業用刃物の鍛冶屋へ転向するものが増えていたため、それほどの影響はなかったという説もあります。

【問題14 答え】 ② D⇒C⇒A⇒B

新長谷寺吉田観音が建てられたのは1222年～1226年で、1340年頃に金重(きんじゅう)が関に移り住み、関鍛冶を発展に導いたとされています。また、室町初期の美濃国では、相次ぐ抗争で急増する刀剣需要を目指して、手搔包光(てがいかねみつ)が一門の手搔派鍛冶とともに、大和から関に移住したほか、幾度の洪水により直江(海津市南濃)の地を見限った直江鍛冶も、関に移住してきました。その後、戦乱が終息を迎え刀剣需要が減少すると、すでに関で活動していた千手院派と合流し、生産と販売の内部調整を目的とした鍛冶仲間の自治機関である“鍛冶座”が結成され、春日神社を関鍛冶の総氏神とし、鍛冶座の拠点としました。

【問題15 答え】 ② シリア

インド産の鋼材を使用し、シリアのダマスカスで刀剣などに鍛造されたことに由来します。現代では、異なる鋼材を何層にも組み合わせたダマスカス模様(積層鋼)は、複雑で美しい縞模様をもち、デザイン性が高く、海外でも人気があります。

【問題16 答え】 ③ 村下(むらげ)

村下は、連日連夜たたら炎と、たたら側壁下部に設けられた「ほど穴」から炉内の状況を観察しながら、砂鉄や木炭の装入や鞆(ふいご)を踏む速度を細かく指示し、炉況の安定を図ります。(日立金属ホームページ「たたらのお話」より)

【問題17 答え】 ③ 大正4年

明治43年に刃物業界が音頭をとり、6年の歳月を経て大正4年(1915年)に建立されました。始祖を元重と伝える最古の資料は、宝徳2年に美濃国守護齋藤利永によって編集された「美濃国鍛冶系図」で、その筆頭に記された元重には「濃州関鍛冶之初也、本国九州之住人也」と注記があり鎌倉時代末頃の人と考えられています。毎年11月8日には元重慰霊祭がとり行われ、今年(2015年)100年の節目を迎えます。

【問題18 答え】 ① 夫婦鋏

問題の写真のように、オス、メスでセットになっていることから夫婦鋏とよばれています。

【問題19 答え】 ② 凹み

問題のイラストのように刃の裏を凹ませることを「裏すき」といいます。「裏すき」は、刃物を研ぐときに、刃裏の平面を保ちやすく、刃先を鋭く仕上げ、さらに、槌子の原理による作用点に力を集中させるためのものです。

【問題20 答え】 ③ A 動刃 B 静刃 C 触点 D ヒットポイント

理美容ばさみは、静刃を動かさず、動刃だけを動かすことで、髪をまっすぐカットすることができます。触点は動刃と静刃が接触する部分で、この触点の出来で切れ味が左右されます。また、ヒットポイントは、指穴同士が接触する部分で、衝撃を緩和するために柔らかい素材が用いられたり、カットの際にカチカチと音を出すために硬い素材が用いられたりします。



【問題21 答え】 ④ 食用油をしみ込ませた布で拭いておく

食用油をしみ込ませた布で拭いておくと、油分の膜が錆びを防いでくれます。①は湿気がこもり錆びる原因になるのでやめましょう。③は、塩分が錆びの原因となるのでやめましょう。

【問題22 答え】 ② 焼き入れ

焼き入れの温度管理や材質によって出来ることがある傷で、研磨の際に見つかることが多いです。刃切れがある刀は、強度が落ちるため折れやすくなります。

【問題23 答え】 ② Mo(モリブデン)

切れ味、耐摩耗性をより高めるために、モリブデンやバナジウムなどが添加されます。

【問題24 答え】 ① ペーパーナイフ

鋭利な刃では紙の繊維の強弱に関わらず切れてしまうため、紙の折り目に沿って綺麗に切ることができません。ペーパーナイフは、鋭利ではない刃で引き裂くように紙を切ることによって、紙の折り目通りに切ることが出来るのです。

【問題25 答え】 ③ ロウ付(づけ)

溶接の一種。母材(接合される方の部材)よりも融点の低い合金(ろう)を溶かして接合します。ロウ付する際の炉の温度調節など高度な技術が必要です。

【問題26 答え】 ① 薬品で溶かす

②は、58面体のブリリアントカットなどを手作業で行います。③は、雲母と同じ劈開(へきかい)という性質があり割れやすい方向で割れます。④は、最近のアクセサリはこの方法が多くありません。

【問題27 答え】 ④ 江戸時代

鑢目(やすりめ)は、茎(なかご)と柄木との接面をザラザラとしてすべりにくくし、茎が柄から抜けるのを防ぐ役目を果たしていますが、茎の美観を考慮し、時代が下るにつれて鑢目にいろいろな工夫をこらす刀匠が多くなりました。寛永の末頃から一部の刀匠が、茎の美観を増すために始めたのが化粧鑢の始まりです。

【問題28 答え】 ① 刀身を鞘(さや)にしっかり収めるための「はばき」をつくる

刀剣小道具の下地作りを行うと共に、鞘と柄(つか)がぴったりくするように刀身と柄をつなぐために重要である「はばき」をつくる職人です。②は鞘師、③は研師、④は柄巻師といえます。

【問題29 答え】 ④ 食品加工業 - トムソン刃

トムソン刃とは、刃を組み込んだ木型を使って複雑な形にカットしたりミシン目や折リスジを入れたりする特殊な加工に用いられる刃です。主に、紙の加工などに利用されます。

【問題30 答え】 ① ハマグリ刃

トリミング刃は、食品加工業で混ぜるときに、フライングシャー刃は、鉄鋼加工業で鉄板を切るときに主に利用されます。波刃は、すべりやすいものや切りにくいものを切るために、のこぎりのような機能を加えた刃です。

【問題31 答え】 ③ 1/8

たたらの一回の操業に装入する原料は、一例をあげると、砂鉄約8トン、木炭約13トンで、出来る鋳(けら)は約2.5トンです。この鋳のうち良い鋼の部分(たまはがね)といい、この約2.5トンの鋳からとれる玉鋼は、1トン程度です。よって、装入される砂鉄約8トンに対して、出来上がった玉鋼は約1トンで、1/8の量になります。

【問題32 答え】 ④ 玉鋼1級:炭素量 1.5%~1.7%のもの。破面が均質でそのまま刀剣の鍛錬に使用可能

“たたら”に生産された広義の鉄は、基本的には含まれる炭素の量によって性質が大きく変化し、用途も変わります。炭素量により、0.02%以下を鉄、1.7%以上を銑(ずく)と大別していますが、玉鋼の1級品は、炭素量1~1.5%のものが主体で、④の炭素量1.5%~1.7%は誤りです。(参考文献:「美鋼変幻 -たたら製鉄と日本人-」,発行:日刊工業社,著者:黒滝哲哉)

【問題33 答え】 ① Cr(クロム)

刃物に使われるステンレスには、クロムが含まれています。さびにくく扱いやすいのが特徴で、家庭向きの包丁といえます。

【問題34 答え】 ③ 1位 岐阜県 2位 新潟県 3位 大阪府 4位 福井県

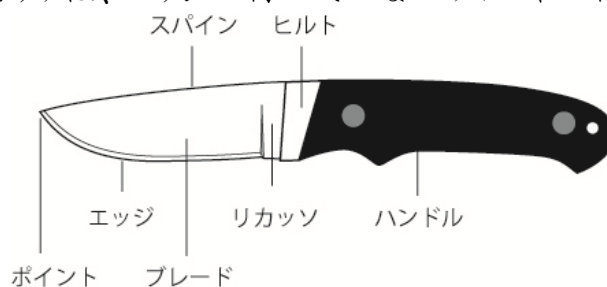
平成24年工業統計調査によると、包丁の出荷額のシェアは高い順に岐阜県、新潟県、大阪府、福井県と続きます。①はハサミ(理髪用を除く)、④はその他の利器工匠具(ツメキリ・缶切・栓抜等)の全国シェアです。

【問題35 答え】 ③ 折紙

奉書紙などを横に二つに折ったものを折紙といい、本阿弥家が鑑定した証拠として、正真であることを示した紙としてそれを用いたことから転じて、強く推薦したり保証すること、またはそれにより価値が上がることを「折り紙を付ける」といいます。現代では、人の才能や実力に対しても「折り紙付き」などと使われています。

【問題36 答え】 ② ヒルト

スパインは、ナイフの刃が付いていない辺。リカッソは、エッジの付いていないブレードの付け根部分。ポイントは、ブレードの先端です。



【問題37 答え】 ③ 何かの時に使うかもしれないので、包丁を新聞紙に包んで車に入れて走行する

銃刀法で、車の中に包丁やナイフを明確な目的なく置いておくことは禁止されています。キャンプに行く、包丁を研ぎに行く、また買った包丁を持って帰るなど、目的があって車の中に入れておくのはOKですが、何かの時に使うかもしれないのでという理由で車に入れておくのは銃刀法違反で罪になる可能性があります。同様に、畑に行くために鎌を持って行くのはOKですが、いつか使うかもしれないので軽トラに鎌を置いておくというのも罪になる可能性があります。気を付けましょう。

【問題38 答え】 ② 木柄が傷んで劣化するため

包丁を長く使うためにも、自分で洗いましょう。なお、最近は食器洗い機対応と表示してある包丁もありますので、食器洗い機を使われる方はそちらを使うと良いでしょう。

【問題39 答え】 ④ 割れたり欠けたりしにくい

セラミック包丁は、食材に鉄味がつく心配がなく、材質上錆びませんが、陶磁器のお皿などと同じように割れたり欠けたりしやすいので、扱いには注意が必要です。硬いので、専用の砥石が必要になります。

【問題40 答え】 ① 刃のもよう(刃文)を作る

「土置き・土取り」は、ねん土と松炭で作った焼刃土を刀に塗ります。これによって焼き入れしたときに、刃のもよう(刃文)ができます。小槌でたたいて刀の形にのばすのは「素延べ」、刀に残っているでこぼこを修正するのは「荒仕上げ」、刃になる部分、みねになる部分の形を打ち出すのは「火造り」という工程です。

【問題41 答え】 ③ 三徳包丁

包丁は、和包丁、洋包丁、その他の包丁と大別できますが、三徳包丁は、和包丁である薄刃包丁と洋包丁である牛刀の利点を備えており、その他の包丁に分類されます。日本の家庭で一般的に用いられる包丁です。

【問題42 答え】 ③ 魚のウロコを取る

鱈などの小さい魚は出刃包丁でウロコが取れますが、鯛などのウロコが大きくてかたい魚にはウロコ取りが便利です。尾から頭に向かってウロコをこすって、削り落とします。

【問題43 答え】 ① かつおぶしを削る

大工道具の鉋(かんな)の刃を上向きにして、小箱に据え付けたもので、削った鰹節が小箱から取り出せるようになっています。この器械は、正式名称を小倉式鰹節削り器といいます。



【問題44 答え】 ② 鉄道切符を切るとき

改札鋏(かいさつきょう)は、電車の改札口で入場する際に切符に使用済みであることを示す印を入れるための道具です。改札鋏で開ける穴は、三角や四角、丸型など全国津々浦々、実に100種類以上もの形があります。しかし、1990年代以降、自動改札機の導入などに伴い、改札スタンプへの変更が進み、現在では改札鋏はあまり使われなくなりました。「パチンパチン」という改札鋏の音が懐かしく思われる方も多いのではないのでしょうか。

【問題45 答え】 ④ 牛乳瓶のふたを取る

日本での牛乳の販売は、明治時代からはじまり、1889年に瓶入りの牛乳が登場しました。最近では牛乳瓶のふたに取っ手がついているものが多く、開けやすくなっていますが、以前は取っ手がなかったため、爪であけたり、このようなきり状の道具であけていました。

【問題46 答え】 ① ダンボール

両側に付いたギザ刃でダンボールの開封・カットが可能です。カッターとは違い刃先が丸くなっているためダンボールを開封する際に中身を傷つけにくく、替刃式カッターのように折れず、異物混入を防ぎます。ギザ刃は作業者の怪我の軽減のほか、折り目を入れるのにも向いています。

【問題47 答え】 ③ 重ねた紙を平判に切り分ける時に使用する

機械抄き和紙の製造工程では、紙がロール状で出来てきます。何千 m もロールになった紙を1枚紙(平判)に切る際に使用されています。何十枚にも重ねて切るため、カッター等のような薄い刃では刃が折れてしまい、のこぎりのようなノコ刃でも切り口がボソボソになったり、刃が引っかかって紙が破れてしまうので使えません。丈夫で大きな刃、かつ鎌のような形状を活かし、しっかり引いて切る事で、何十枚も重なった紙もきれいに切る事が出来るのです。

【問題48 答え】 ④

江戸時代には、④のように握りばさみの形をした爪切りばさみで爪を切っていたと言われており、浮世絵にもその様子が描かれています。握りばさみは、ギリシャ時代に誕生したと言われていますが、現代では日本で多く使われているため「和ばさみ」とも呼ばれています。

①は明治時代に使われていた舶来型爪切り、②は現代のニッパー型爪切り、③は昭和初期に使われていた爪切りばさみです。

【問題49 答え】 ③ 華道ハサミ

生け花に使う華道ハサミです。③は池坊型と呼ばれるタイプですが、ほかにも古流型など、華道の流派毎にハサミの形が違います。持ち手がクルッと巻いた“わらび手”が池坊型、持ち手が輪になっている“つる手”が古流型の特徴です。ちなみに①はトタンなど金物を切る金切りハサミ、②は果実を摘む摘果ハサミ、④は盆栽用の芽摘みです。

【問題50 答え】 ④

①は冷凍包丁、②はカステラ包丁、③は皮剥ぎ包丁です。和紙裁ち包丁は、和紙の四方を断裁し、続いて規格の寸法に断裁します。和紙を何枚にも重ね、定規に当て柄を持ち前後に押し切ります。そのため刃は片刃で丸くカーブしています。